



# 「水と暮らし」を支える新しい技術とその思想 「水と暮らし」を支える流域モデリング技術

株式会社地圏環境テクノロジー

田原 康博

気候変動下において我々が直面する「水」に関する複雑で様々な課題に対して適切な対策を講じていくためには、過去から現在に至るまでの、地上から地下までを含めた流域水循環系の現象理解や実態把握に向けた取り組みがとりわけ重要となる。流域モデリングは、陸域における様々な物質やエネルギーの一体的な輸送過程を捉えようとするアプローチであり、気象条件や土地・水利用等の様々な自然・人工環境の変化が流域内の物質・エネルギー挙動にどのような影響を及ぼすかの定量評価を与えることができるため、これらの取り組みに貢献する強力な武器となる。

本研究は、首都圏流域圏をターゲットとし、流域水循環に関わる膨大なデータに基づいて、その全域及び詳細流域（神田川流域、鶴見川流域）を対象としたモデリングを試み、これからの暮らしを支える新たな技術となることを目指した研究を行ってきた。本シンポジウムでは、首都圏流域圏の水循環系の可視化・定量化や、将来における異なる政策シナリオ導入時の対策効果予測などの本研究で生み出された成果を報告する。

